

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホームうの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	平成 31 年 2 月 1 日	評価結果市町提出日	平成31年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhouvow_detail_2018_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470301090-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歌人佐々木信綱生誕の地で、唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花の垣根」に囲まれた明るい広々とした平屋建ての施設です。庭には緑があふれ、実のなる木が植えてあり、四季の移り変わりが楽しみでもあります。運営母体である「医療法人ほうしょう会 朝川クリニック」が常にご入居者様の健康管理をおこなっています。理事長である主治医には24時間相談できる体制を取っており、緊急対応も万全です。ご縁をいただいたご入居者様は、ご希望により、終末まで対応させていただいています。ご入居者様、職員は和気あいあいと、とても明るく、法人理念である「人生の先輩として尊敬の念を持ち、安堵安心を捧げ、真心をもって接する」を職員は日々実践し支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな住宅地にある事業所で、地域住民との関わりが多く、地域の活動や行事に積極的に参加している。管理者、職員は事業所理念の「笑顔で作る やさしさの輪」を掲げ、笑顔を決やさないように支援をしている。家族、自治会、地域住民、ボランティア、関係機関団体等の理解と協力により、家庭的な雰囲気の中で、安心して生活出来る事業所を目指し利用者の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人理念とグループホーム職員全員で法人理念に沿って掲げたグループホーム理念を朝礼の際に毎朝唱和し意識付け、それらの理念に沿ったサービスを日々実践している。	事業所理念の「笑顔で作る 優しさの輪」と3つの約束ごとを朝礼時に唱和し、職員全員が理念を共有しながら日々利用者の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており役員の方が定期的に広報誌等を届けてくださる。その際には情報交換をおこなう。運営推進会議でも地域の情報をいただく。グランドゴルフ大会、ふれあいフェスティバルにも参加した。又、子供神輿やハロウィンでは地域の子供達が来訪、世代間交流ができています。	自治会に加入し、地域の行事や活動・イベントに利用者と参加している。子供神輿やハロウィンで利用者が子供達にお菓子を渡す事を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方々との交流の場で認知症の方についての対応や日々実践しているケアについて情報発信している。本年も地域の高校からインターンシップを受入れ認知症についての理解を深めていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに実施している会議では日々の取り組みやサービスの内容を説明し意見交換をおこなっている。いただいた意見はサービスの向上に活かしている。	利用者家族・自治会長・老人会長・民生委員・主治医・介護相談員・地域包括支援センター職員が出席し、2か月に1回開催している。事業所の活動状況報告、出席者からの意見や助言があり、意見や提案を事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内での困難なケースは地域包括の方や介護相談員にも参加していただいている運営推進会議でも挙げさせてもらい、アドバイス等頂いている。また介護相談員の方々にもお越し頂いた際には相談させて頂き、ご意見等頂いている。	運営推進会議開催時、包括支援センター職員・介護相談員の意見や提案を聞いている。また、提出書類の更新時に市広域連合介護保険課職員と事業所運営等で話し合いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束等の適正化のための指針」「身体拘束マニュアル」を作成し、現任、新任研修で学び、「身体拘束をしないケア」を実践している。手動にしていた玄関ドアは自動ドアに切り替えた。	玄関は自動ドアで施錠はしておらず、ドアの開閉時のセンサー音で出入りの確認をしている。身体拘束のDVDを使用して研修を実施し、職員はレポートを提出している。言葉による拘束はその場で注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務改善会議や施設内研修で『スピーチロック』について学ぶ機会を持ち、虐待をしないケアとはどういうものかの啓発に努め、虐待が見過ごされることがないように日々注意をはらい、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前から利用していた日常生活自立支援事業から成年後見人制度の利用が必要となられた方がいらっしゃる。関係者との連絡を密にし適切に対処できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を提示して説明し、十分考慮していただいてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へは随時、家族へは日頃の面会時、介護計画作成時には特に細かく要望や意向等をうかがう。毎月のお便りの中でも、来所のお誘いと、意見や要望をいただけるよう呼びかけ、いただいた意見や要望は運営に反映させている。「家族交流会」を開催し気軽に発言できる場を作っている。	面会時に家族から意見や要望を聞くようにしたり、年に2回開催する家族交流会や運営推進会議で意見や要望を聞いている。毎月送付する請求書に「うの花」だよりと担当職員が利用者の状況を記入したメモを同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の業務改善会議のほか業務の中で生じた職員の意見は、その都度、適時、管理者がくみとり、毎週おこなっている運営会議で報告、善処している。	管理者は話し易い環境づくりを心掛け、職員がいつでも意見や提案・要望を聞くように努力している。意見や要望を事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課を年2回実施し職員個々の努力や実績を反映させ職場の「やる気」に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会の案内を事業所に掲示し、職員が積極的に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会での交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。地域密着型サービス事業所連絡会の会員になり、ネットワーク作りや勉強会に参加し他の事業所との交流をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた際に家族や担当ケアマネから情報を得て本人と面談している。その際には困りごとや意向などの聞き取りを行うと同時に言葉遣いやノンバーバルコミュニケーションに留意し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会において困りごとや意向の聞き取りを行うとともに、入所に際して後ろめたさを感じておられる家族には少しでも心の負担が軽くなるような言葉かけを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関しては本人と家族との意向が合致していないケースがほとんどであるため、在宅生活が継続できる様々なサービスの活用等の提案もおこなった上で入居の判断をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者を「支援の必要な人」としてではなく唯一無二の人としてとらえ長所を生かした役割を持っていただき、「世話になっている」といった負担を持たれないよう配慮を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所されたときや毎月のお便りを通じて利用者の身体状況・生活状況を伝えている。また体調の急変時には速やかに連絡させていただき情報を共有することで共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始には娘様宅へ泊まり込みで出かけられたり、息子様の送迎で姉妹のお宅へ出かけられる方もいらっしゃる。	娘と美容院へ行ったり、職員の送迎で歌会へ行く利用者がいる。また、老人会の人の面会等があったり、手紙を出したり年賀状を書く利用者がいる。家族が掛かりつけの歯科医に診察に連れて行ったりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し必用に応じて職員が間をとりもったり、席替えを行うことでご利用者様同士が良好な関係を保てるよう、また孤立する方がないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	容体悪化のため病院へ入院された利用者の今後について、家族の意向をうかがいつつ主治医の意見など参考に様々なサービスの活用の提案を行うようにつとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出をされないご利用者様がほとんどであるが、日々の行動や発言を記録に残し希望や意向の把握につとめサービスの検討をおこなっている。	日々の会話で利用者の意向や希望を聞くようにしたり、入浴時や就寝前の会話で把握するようにしている。把握が困難な利用者は仕草や表情、態度で思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴や暮らし方、介護が必要になってからの暮らし方について聞き取り記録している。日々の生活の中で聞き取ったことや家族のお話内容から馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個別記録、バイタル測定、食事摂取量などの記録より体調を含めた現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の個別記録よりモニタリングチェックを行い、関係者同席で適時カンファレンスを実施、介護計画を作成、大きな変化がない限り3か月に一回の計画の評価、6か月に一回の計画の見直しと更新を行っている。	担当職員や家族、関係者の意見を聞いて毎月モニタリングを行っており、3か月に1回見直しを実施している。6か月ごとに介護計画を作成している。	家族面会時、家族交流会や運営推進会議で家族との関わりを一層深め、家族の意見が介護計画作成や事業所の運営に活かされることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録より様子観察が継続して必要なことは、ホーム日誌にて特記事項とともに申し送りをおこない、職員間で情報を共有し介護サービスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様にご利用者様の外泊を望まれること等もあり、体調等も考慮して、できる限り実現できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所、季節のイベントや催しにより楽しみを持っていただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、当法人の理事長である医師が主治医として定期的に往診し、健康管理を行っている。専門外の病院受診の際はご家族様の協力を依頼しつつ職員も同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。	2週間に1回、利用者全員が協力医(理事長)の訪問診療を受診したり、24時間対応で利用者の健康管理をしている。他科の病院受診については家族の理解と協力で職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としては不在であるため、医療面は当法人の理事長である主治医に直接相談し指示をいただいている。必要であれば、適切な受診を支援し、必要な医療処置は運営母体のクリニックの看護師が訪問し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合には、法人の理事長である主治医から詳しい情報を提供し、安心して治療を受けられる体制にある。施設内での情報は介護サマリーを提供し情報交換をおこなっている。又、認知症状の悪化も踏まえて早期に退院できるように連携をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の時点で当施設の終末期に向けた取り組みを示した書類を提示して説明している。早い段階から話し合いをおこない、その時期が来たときには、関係者と連携し、家族と話し合い、その方らしい終末期を迎えられるように、適時確認をおこないながら状況に合った支援をおこなっている。	入居時に重度化した場合や終末期の対応について説明をしている。重度化した場合はその状況に応じて医師と家族が話し合い、終末期に向けた支援を行うようにしており、昨年2名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務改善会議などを利用して応急手当など急変時の対応を勉強している。消防学校でおこなわれる訓練にも参加し、学んだことを職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回実施している避難訓練の内容として地震、火災等いろいろなケースを想定し、職員全員が役割を持って動けるよう意識付けを行っている。	施設防火管理者の指示のもと、年2回、火災・地震を想定した避難訓練を実施している。また、地域の防災訓練に職員が参加したり、水・食料等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室ドアのガラスはすりガラス状に細工し外から中の様子が丸見えにならないようプライバシーに配慮している。理念に基づき言葉かけや対応にも、敬いの気持ちをもっておこなうよう気を配っている。	居室の入退室・トイレ誘導時・入浴時等の声掛けや言葉遣いに、利用者のプライバシーを損なわないように支援をしている。呼称はさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけに対する反応や様子を確認し、利用者の意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調には気を配りつつ、どのように過ごしたいのか本人の発言や態度をよく観察してその人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々清潔に努めるとともに季節感のある衣類を着ていただけるよう支援している。こだわりで重ね着をされ、違和感がある場合は柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に軽い体操や嚥下体操、歌を歌うことで誤嚥性肺炎を予防し、美味しく食していただけるように取り組んでいる。食事には穏やかな音楽を流し、ゆったりした雰囲気支援をおこない、又、その方に合った介護食をより美味しく安全に摂取していただけるように食事提供方法を見直した。結果、自力で摂取できる方が増えた。	契約業者(セントラルキッチン)で調理した食事を利用者に合わせた状態で提供している。豊富なメニューで季節感のある食事を利用者に提供している。癒しの音楽を流し食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より水分制限や食事制限の必要な方は職員が管理している。一人ひとり摂取量を記録し、著しく摂取量が変化した場合などは主治医に報告している。朝のお茶タイムにも軽い運動を取り入れ好みの飲み物を用意し、自然に水分を摂っていただける工夫をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯のポリデント洗浄を実施している。自己管理ができない方へは、職員がその都度口腔内をブラッシングしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録より排泄パターンを把握しトイレ誘導を実施している。自らトイレを使用される方には、その方の習慣を活かしてさり気ない支援をおこなっている。	排泄記録表で利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導をしている。声掛けや誘導により排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行等、運動等を勧め身体を動かす支援をおこない、水分が不足しがちの利用者には、好みの飲み物をお出しする等支援し、便秘にならないように働きかけている。食事提供を工夫したことにより野菜の摂取量が増え便秘の予防に繋がっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状況に合わせた支援をおこなっている。疲れやすく午前中の方が比較のお元気な方には午前中に入ってもらいやすいように支援し、入浴が苦手な方には気持ちよく入浴していただけるような声掛けをおこない、その方の気持ちを察知し柔軟に対応している。	週2回、脱衣所にエアコンが設置してある浴室で、一人ずつ湯を入れ替え入浴剤を使用して入浴をしている。季節感のある菖蒲湯やゆず湯を楽しんでている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状況を職員間で共有し、安眠を支援している。一人で居室で過ごしたい方には、居室で安心して休息できるように支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬がなされるよう服薬管理を行っている。個人別の薬庫の棚に処方されている薬の処方箋のファイルを開覧できるように設置し、薬の目的や副作用、用法・用量が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の若かりし頃にヒットした映画のDVDの上映会、懐かしい歌と一緒に歌う「歌の会」などは全員楽しめるレクリエーションとなっている。他運動会やクリスマス会などの季節のイベントも時期に応じて楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に姉妹のお宅へ行かれる方、娘さんやお孫さんと一緒に出掛けられる方など戸外に出掛けられる機会を支援している。他の方々も季節に合った外出ができるように適時ドライブにお誘いしたりと、季節の景色を楽しむ外出支援をおこなっている。	梅・桜・紅葉等、季節の花見や買い物にドライブで出掛けている。天気の良い日は、事業所周辺の散歩や前の畑の野菜の収穫をする利用者がいたり、家族と外出をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは家族が持参されている。法人立替で購入支援もおこなっている。グループホーム内の仮想通貨として『花』を作成し、イベントでマーケットを開催し買い物ができる環境を実現させている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をかけたり手紙を出したいとおっしゃる利用者が現在はいませんが、もし今後要望があれば柔軟に対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりのよいリビング、天窓と自然採光に恵まれた造りで明るい雰囲気のある生活空間がある。季節感のある壁画、ゆったりした動線を確保したテーブルの設置、ご家族様と一緒に腰かけて話をする事が可能なソファを置いたりなどの工夫をしている。	広くて陽当たりの良いリビング兼食堂は、利用者が寛げる場所となっており、広い廊下は天窓からの採光でとても明るい空間である。壁面に大きい毛糸アートや季節感のある利用者手作り作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は相性の良い方同士での配慮より時々見直しつつ指定席を設けているが、長椅子やソファ、畳などの備えで思い思いに過ごしていただける工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体状況より電動ベッドを購入、寝起きが楽に行えるようになった。家具などは馴染みのものをもちこんでいただき本人が居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	電動ベット・クローゼット付の大きな押入れが設置されていたり、テレビ・テーブル・椅子等使い慣れた家具等が置かれている。居室は掃き出し窓で日当たりが良く、とても明るくて居心地が良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりは自力ながら不安定な歩行をされる利用者が安全に自立した生活を送れるように、また認知機能が衰えた利用者のためトイレや居室の場所の掲示を工夫している。		